

産地戦略

実施期間 令和6年度

実施主体 津南町有機栽培普及協議会
都道府県 新潟県
対象地域 津南町
対象品目 水稲



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

水田畦畔の機械除草の作業は大きな労働負担となっており、有機栽培面積拡大の阻害要因となっている。

労力の負担が少なく、環境負荷の低い水田畦畔の除草体系の確立は喫緊の課題であり、本事業では、熱湯・カバークロープを用いた水田畦畔の除草体系を確立し、機械除草作業時間を削減することで、有機面積の拡大及び省力化を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	播種	定植				収穫開始							
技術名			期間中適宜実施										

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	播種	定植				収穫開始							
技術名				熱湯散布	熱湯散布	カバークロープ	カバークロープ						

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	1383	▶ 1383	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	2	▶ 12	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	2	▶ 12	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	2	▶ 12	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬（除草剤）散布 機械除草	熱湯を用いた除草 カバークロープによる畦畔除草の省力化	化学農薬（除草剤）の使用回数の削減 作業時間の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬（除草剤）の使用回数（回）	1	▶ 0	
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

実証結果について、普及・啓発に努め、地域の農業者を中心に広く普及する。

関係者の役割

関係者名	株式会社ごほん	新潟大学	十日町農業普及指導センター	津南町役場
役割	試験区提供・実証実験	検証・調査機関	調査検証・検討	事務局

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

作業の様子や検証結果・考察をまとめたものを、動画作成。
取組報告会や農業者が集まる場にて、取組みについての説明時に動画を活用する。